

西川和久氏（デジタル専門カメラマン）

基準モニターとして使える色再現性能と表示の安定性。

機器にこだわるプロのオフィスで、写真画像編集用に採用。

ソフトウェアプログラマー、パソコン系の雑誌等でのライターを経て、現在はデジタル専門のカメラマンとして活躍する西川和久氏。撮影では1日で1,000枚以上の写真を撮るため、そのデータ整理や処理には1日を要することもある。長時間向い合うモニターに対して厳しい目を持つ同氏が、写真編集作業を行うための表示機に選んだのはEIZOのColorEdge CG21であった。



一番長時間、身近に接するから、
モニターにはこだわる

「モニターやキーボードは、自分がパソコンを扱う上で、入口と出口となりうる重要なものですし、自分の一番近くで使うものですから、一番こだわらなければいけないと思います。だから、性能の良いものを積極的に導入するようにしています」と西川氏。そのこだわりの中で選ばれたのが、EIZOのキャリアレーション対応液晶モニターColorEdge CG21であった。

同氏がEIZOモニターを初めて使ったのは、まだプログラマーとしても活躍

していた頃。「以前使っていた他社のCRTモニターと置き換えた瞬間驚きました。EIZOのCRTモニターの表示は比べ物にならない程に綺麗でしたね。以来、EIZOのモニターは高く評価しています」と同氏は話す。



西川氏が最初に使ったFlexScan T560i-j。
現在も同氏のオフィスで活躍中。

自分の腕が上がったかと思うほど
綺麗に表示されます（笑）

しかし液晶モニターの表示性能には不安を持っていたため、Adobe Photoshopを使用するモニターとして液晶を導入するのは今回が初めてとなる。従来使用していたモニターの買い換えに際し、最初は雑誌やインターネットの評価記事なども参考に量販店などに展示されているモニターも見に行ったが、「表示されているグレーチャートが色づいてしまっているなど、写真画像処理には使えないな、と思いました」と同氏。これに対しColorEdgeは、「グレーチャートの表示



は正確ですし、自分の腕が上がったかと思うほどに綺麗に表示されます」と評価する。

「ColorEdgeを知ったのは、連載を持っていたパソコン系の雑誌社に送られてきたニュースリリースがきっかけでした。当初は、その連載で紹介しようと考えたんです。」これを機に、同氏のオフィスのモニターとして導入することになった。

モニターの明るさを変えてもガンマが引きずられない

ColorEdgeのメリットは、「まず、モニターの明るさを暗くしてもガンマが変わらないことです。1日撮影に行くと、そのデータを整理、処理するのに10時間ほどモニターに向かうことになります。目の負担を軽減するためにモニターは暗めに設定しているのですが、一般のモニターのように、モニターの明るさを暗くするのに伴って、ガンマまでが変わらないので大変助かっています。ガンマが変わってしまえば、画像処理には使いにくいですからね。ちなみに、Windows XPで作



西川氏の基本撮影セット。海外撮影の時には、後ろのスーツケースも加わる。

業しているのも、色温度6500K、ガンマ2.2、輝度80cd/m²でキャリブレーションしています。」

基準モニターとして使える色再現と表示の安定性

さらに「表示が安定しているのも、ここで表示される色を基準に考えることができます。作業の工程で基準モニターになりうることもメリットの一つですね」と話す。「入稿の際に、雑誌社から色に関する問い合わせが来ても、先方が使っているモニターよりはるかに正確なので、入稿したデータは正しいと言い切れます。それでも納得してもらえない場合は、実際にオフィスに来てもらって、ColorEdgeの色を見てもらうと、納得してもらえますよ。自分の手元で基準の色が扱えることは安心ですね。」また、起動後すぐに安定した表示になることも、業務の効率化、正確化に貢献しているという。他のカメラマンなども同氏のオフィスでColorEdgeを目にすることがあるが、「彼らにも大変好評ですね」と同氏。「ColorEdgeの色再現なら、色の最終確認を行う基準モニターとして使いたいと言っています。やはり他のモニターとは違いますよね。なにしろ、1台1台個別に調整しているんですものね。最初それを聞いたときは驚きましたけど。」

同氏はColorEdge専用の遮光フードも併用している。「フードをつけると、さらに使いやすくなりましたね。暗い部屋なので、それほど光の入り込みの



影響はないかな、と思っていましたが、実際につけてみると明らかに違いがありました。黒が締まって、シャドウの状態がよく分かるようになりました。」

さらに「キャリブレーションソフトのColorNavigator Ver.2では、複数の環境でのキャリブレーション結果を履歴として残して切り替えることができるので、印刷向けで色温度を変更する場合などに、これから活用していきたいと考えています。ColorEdgeに一つ注文を付けるとすれば、Adobe RGBに対応して欲しいかな」とColorEdgeの発展に期待を寄せる。

西川和久氏

1962年11月1日生まれ。パソコン歴は中学生の頃からと長く、大学生の時には既にプログラムの仕事に関わる。プログラマーとして活躍する中で、周辺機器の評価記事を依頼され、フリーのライターとしても活動するようになる。ライターとしてデジタルカメラの評価記事を書くうちにデジタルカメラでの撮影の魅力にとりつかれ、現在は主にデジタル専門のカメラマンとして、グラフィック、写真集などを手掛ける。株式会社シー・エフ・コンピューティング運営。

株式会社ナナオ 〒924-8566 石川県松任市下柏野町153番地

営業1部 (03) 5715-2011 名古屋 (052) 232-7701
大阪 (06) 4807-7707 福岡 (092) 715-7706
北陸 (076) 277-6790 営業2部 (076) 277-3922

www.eizo.co.jp

EIZOは(株)ナナオの世界統一ブランドです。